

ナキコトニ候生捕タテマツラント申セシ印ニハ御
 鼻ヲ截テ是ニ候ト鼻紙入ヨリ取出シ義龍ノ二ハニ
 サレ置コレモ亦罪戾遁ガタツ候ヘトモ武士ハ詞ノ違
 ラ永代ノ恥ニ仕リ候臣一人ハ恥辱ヲモ忍ベク候ヘ
 臣カ同姓親族ノ面ヲ穢スニ似タレハ已コトヲ得ス
 候首尾ハ爾々ニ候ト申セバ小牧閉口ス此ヨリ杉先
 髪ヲ斷テ高野ニ趣ク信長ハ道三ノ婿ナルニヨツテ
 師ヲ發シテ予合戦ヲセント欲ス義龍コレヲ聞テ美
 濃ノ國中尾張ヨリノ通路ハ道ヲ作ラセ橋ヲ掛サセ
 信長我ヲ討ントナラバ平場ニ引受テコロヨク有無
 ノ防戦ヲトケ無事ニハ尾張へ帰サシトアサ笑テソ

居ラレケル信長氣ヲヤ吞レケシ已ニ打出タル師ヲ
 旋シテ戦ヲ止ラレヌ義龍ノ時美濃ヨク治リテ士
 懐キ民樂メリ嗣子龍興ノ代ニ至テ小牧源太野木
 治左衛門兩臣權ヲアラソフ冬日爐邊ニ坐ス小牧
 爐中ニサレ入テ火ヲカキヲコス處ヲ野木上ニ衆
 カリ小牧ヲ斬ル小牧短刀ヲ抜アゲサニ野木ヲ
 刺テ兩臣立トコロニ死ス龍興生質暗弱ナリ兩臣
 ノカニヨリテ敵ノ為ニ侵サレズ兩臣死シテ夜母戰
 ニ利ヲ失ヒテ遂ニ信長ニホロボサレヌ

近代正説碎玉話卷之三終

近代正説
玉話

武將感狀記

四

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

281
4

近代正説碎玉話卷之四目錄

竹中半兵衛斬三老臣事

川畑太郎右衛門捕忍者事

柿崎和泉措首級先聞擊事

源君使在候見敵地事

源君感賞二士之武功事

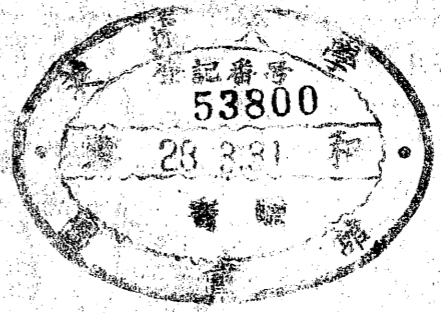
内藤正成守濱松城事

中村新兵衛戰功之事

駿州之住人仁左衛門渡異國功名事

久世三四郎出在候事

阿部四郎五郎使先手事



安藤治右衛門心掛之事

行野原者與行通路者遲速之事

源君巡見大坂之攻口事

源君相從壯士於御馬迴事

土屋長吉忠志之事

阿波鳴門介與水野勝成争武功事

山中鹿之助軍物語之事

忠野左文勇剛並酒肆之事

蒲生氏郷取立松倉權助事

下津權内助武功之事

江口三郎右衛門之從者出口夫婦之事

遠藤河内殺三村紀伊事

武具之輕重長短各可從其力量事

極暑疲馬不可飼水事

源君使景勝援佐竹義宣事

横田甚五郎之相圖物見之事

物見使番察將士之心不可言實事

源君使渡邊圖書見加州之陣場事

伊達正宗使茂庭周防出物見事

福嶋正勝不歸服秀頼事

淺野但馬守與大野主馬助相戰事

長曾我部盛親討捕藤堂高虎之先手事

岩村清右衛門佐治内膳功事

三人之武功其賞勝劣事

於大坂陣夜討阿波之手事

梶原太郎兵衛助石村而討敵事

加藤明成用加賀山之策而涉川事

近代正説碎玉話卷之四

淡庵子 編輯

一 齋藤龍興ノ臣竹中半兵衛ハ一萬石ヲ領シテ西美濃

菩提ノ城ヲ守ル沈勇濫殺ニシテ人其才器アル事ヲ

不知三老臣安藤氏江不破等侮之竹中憤ヲ含ミテ二

老臣ヲ殺シ事ヲ計ル其比竹中ガ弟半平龍興ニ愛幸

セラル竹中願クハ城中ニ半平ガ家宅ヲ造テ食浴ノ

間モ猶不急近侍ノ奉公ヲ勤サセバマト申請ケレハ

龍興即其望ヲ許サル於是竹中勇士二百許ヲ傭役ノ

體ニシナレ三老臣ノ一坐ニ會スルヲ待テ其坐ニツ

ト入テ先一人ヲ手ノ下ニ斬リ二人驚ク所ヲ又二人

ヲモ斬斃又備役ゾト思ヒタル者凡イツクニカ隠シ
置ケン面々鎗カヲ取テ城ヲ守リ門ヲ固ム竹中龍興
ノ前ニ參リテ臣更ニ謀叛ヲ企候ニアラス只三老臣
ガ驕奢ヲ惡テ君公ニ代リテ誅ヲ行タルニ候恐ナガ
ラ此城ヲ御出候へ事静リテ後可奉迎候トゾ申ケル
龍興力ニ不及城ヲ出サレテ竹中遂ニ城ニ據ケレバ
齋藤家ノ主平多ハ竹中ニ歸ス竹中後ニ龍興ヲ迎へ
已相將ノ任ニ處テ權勢日々ニ盛也信長竹中ガ龍興
ヲ逐ト聞テ速ニ龍興ヲ殺セ美濃全州ハ貴殿ニ與ル
ゾト以使云遣シケレバ竹中不悅我素ヨリ龍興ニ叛
ニ非ズ一且家臣ノ罪ヲ匡シタルノミナリトテサレ

テ返答モセザリケリ竹中ガ存生ノ間信長敢テ美濃
ヲ不侵竹中三十六歳ニテ病テ死ス手ヅカラ斬首捕
虜ノ戦功一度モナシ然レ凡文教武策盡ク竹中ニ決
シテ人々其知ニ服セリ間暇アル時ハ常ニ好テ讀書
其器量甚世人ニ超タリ

一 信長泉州ノ岸和田ノ城主香西ヲ攻ラル、城固レテ
不陷已ニ引取ントスル時山崎右馬允ガ弟右京亮ガ
家人川畑太郎右衛門夜渡テ厠ニ行ク厠ノ向ハ麥畑
ナリ其麥畑風ナクテ動ケレバ奇之テ息ヲモセス窺
之ニ一男夫匍匐シテ來ル定テ敵ノ忍ノ者ナラント
思ヒ其間一丈バカリニ成タル處ヲ飛カハリ捕テ縛

ル其誰ト云事ヲ不知引タテ歸テ右京亮ニ告ク右京
 亮是ヲ具シテ信長ノ前ニ至ル瞻目疲足ナリ信長見
 之曰汝僞ル事ナカレ其目ヲアケヨ其足ヲ直セ汝ハ
 是香西ナリト終ニ剪斷之城即陷リ又川畑ハ密ナキ
 勇士也鐘馗ヲ畫テ差物トス川畑カ鐘馗ノ差物トテ
 其比市童モ皆知之

一謙信自兵一萬餘ヲ率テ越中ノ地ニ入柿崎和泉ニ令
 シテ別將ヲ副テ邊塞ヲ攻シム引取ル時戌將出テ戰
 フ此時柿崎カ從兵大川十郎左ノ腕ヲ射貫レタル矢
 ヲモ不拔取タル首ヲ提テ柿崎カ前ニ來ル柿崎罵テ
 日子元ヨリ首一ツ取カヌル者ニ非ス何ゾ以此譽ト

スルマ子又矢一筋ニヨハル者ニアラス何ソ此ヲ以
 テ勇ト思ヘルマ一步モ進ヘキ所ヲ不知マト恥レメ
 タリ是故ニ士卒首ハ斬棄ニレテ殊ニ苦戰ス首級ヲ
 措テ鬪擊ヲ先トスル時ハ功名ノ先後倒顛スルノ患
 アラン是士ノ怨ヲフクム端トナル又徒ニ此患ナカ
 ラントスル時ハ專一ノ場ヲ引テ鬪擊ヲ罷テ首級ヲ
 貪ルノ蔽アラン是兵勢ヲ挫ク基トナル是ノ故ニ良
 將ハ必軍ニ監アリテ規之

一何レノ處ノ戰ニカ 源君敵地ニ入テ存候ヲ遣レテ
 地形ヲ見せシメ玉フニ右ノ方ニ深田アリ馬ノ足モ
 不立歸テ此由ヲ白ス 源君陣个ニ令スル尺而モ其

所身方ノカ、リ口便リヨケレバ戦亂ニ臨ミテハ誰
 モ我ヲ忘レテ馬ヲ馳入討ル、者有ベシトノ御思慮
 ニマ折フレ夏ノ初ニテ白キ裕ラ著ナカラ侍候ノ士
 ヲ召具セラレ深田ハイツコゾ此ニテ候ト申ス詞ノ
 下ヨリ其深田ニ倒レ入テ腰ノ上マテ泥海ニ没レ玉
 へハ扈從ノ人々驚キ走り寄テ引上ケ奉ル陣中カク
 ト云傳テ諸手暫時方間ニ知之合戦ノ時ニ至テ士卒
 皆自戒テ深田ノ近邊ニモヨラス聞テ恐レザルモ見
 テ懲ル習ヒヲ思召ケル物ナラン

一 源君遠州濱松ヨリ兵ヲ出シテ敵地ヲ攻サセ給フ時
 鑊炮頭多ク中ニ一人抽テ一番ニ城下ニツク又一人

足輕三人ツレテ馳來リ鑊炮ヲウタセタリ後日ニ先
 後ヲ争ニ及テ 源君城下ニツク事少ノ遲速ハアル
 ベケレ共衆軍ノ中ヨリ兩人拔タレバ其勇均シ一人
 ハ足輕三人ツレ來ル是其武職ヲ專ニスル事心ガケ
 尤勝レタリ始進テ敵ト矢合シタルモ彼也トテ兩人
 同ク御感ニアツカル

一 源君遠州ニ候ノ城ヲ攻玉フニ一陣本多平八郎忠勝
 ニ陣榊原小平太康政三陣本多作左衛門重次四陣太
 須賀五郎左衛門康高ナリ時ニ内藤四郎左衛門正成
 誤テ足ヲ折損シテ不能從師留テ濱松ノ城ヲ守ル
 源公ニ候ノ地ヲ侵テ夜戦ス俄ニ甚雨疾風ニ遭テ進

退分合自由ナラザレバ輕ク濱松ニ引取玉フ時忠勝
 人ヲ馳テ源君只今御歸ナリ門ヲ開レヨトイハ
 正成令レテ固鎖テ不開忠勝自至テ門ヲ叩キ聲々ニ
 ヲベレ正成門櫓ニ上リ何者ゾソコ卻不卻ハ打殺セ
 トテ鑊炮ニ火繩ヲ挾セテ下知シケル間後軍支テ不
 進得忠勝此由ヲ人ヲ以テ旗本ニ告タリケレバ源君
 一騎門除ニ乘來リ給ヒテ四郎右衛門ハアルカ我今
 歸リタリト仰ラル正成御詞ヲ聞挾間ヨリ挑燈ヲ繼
 テ慥ニヨク見定メテ後門樓ヨリ急キ下リテ自門ヲ
 開キ出迎テ入タテマツル源君正成ヲレテ城ヲ守
 レメハ敵ニ謀將アリトモ不可敢キトテ再三稱譽シ

夕ニヘリ

一攝津半國ノ主松山新外カ勇將中村新兵衛度々ノ手
 柄ヲ顯シケレバ時ノ人は是ヲ鎗中村ト號シテ武者ノ
 棟梁トス服折ハ猩々皮兜鍪ハ唐冠金纓ナリ敵見之
 テスハマ例ノ猩々皮ヨ唐冠ヨ十テ未戰サキニ敗レ
 テ敢テ嚮邇者ナレアル人強テ所望シテ中村與之其
 後戰場ニ臨ニ敵中村カ服折ト兜鍪トヲ不見此故ニ
 競ヒカハリテ切崩ス中村戈ヲ揮テ敵ヲ殺ス事許多
 ナレバ中村ヲ知ザレハ敵恐ス中村遂ニ戰没ス由茲
 敵ヲ殺ノ多ヲ以テ勝ニ非ズ威ヲ懼レテ氣ヲ奪勢ヲ
 撓スノ理ヲ曉ルベシ

一駿州ワラシナト云所ノ民仁左衛門ト云者アリ生質
 才器膽畧アリケルガ日本ノ中ニテハサセル立身モ
 成カタシト思ヒシマムロウニ渡リテ國王ニ仕ヘヌ
 國王ノ弟謀友ヲ起シ王位ヲ篡ントシテ甚危急ナル
 處ニ仁左衛門義ヲ唱テ亂ヲ撥テ殘黨ニテ擊平ケレ
 バ其功ニ由テ長臣トナル後ニハ隣國ヲ攻取勢漸ク
 盛ニシテ四方恐之此時以謀ロソソノ舟ヲ乘取タル事ア
 マタナリロソソノ舟ハカンハント云テ四五寸ハカリ
 ノ角木ヲ用テ格子ニ組舷ニ一面ニ敷渡シ敵其舟ニ
 乗移ル時ハカンハンヲヒタクトラロレカケガ子ヲ
 以テト之其カンハンノ格子ニ組タル間ヨリ矛ヲ以

テアゲサマニ衝之由此戰利アラス仁左衛門灰ヲ器
 ニ入手々ニ持セ舟ニ乗ト均ク其灰ヲ振下セバ眼ニ
 入テ仰見ル事アタハス大斧ヲ以忽カンハンヲ伐折
 ル是ヨリ大ニ利ヲ得タリ仁左衛門シマムロウニテ
 ハ名ヲオツフラト改ム一度日本ニ歸朝ノ望アリ銀
 千貫目ノ貯ナケレバ不能トテ聚之其時ハ日本人シ
 マムロウニ渡海スル者多シ生國ノ者ナレバナツカ
 シキトテ對面スルニ左右ニ衛士ヲ置テ劔ヲ持セシ
 マムロウノ衣服ヲ著テ坐ス其體嚴重ナリ終ニ病死
 ノ歸朝ノ志達セザリキ

一久世三四郎ハ祿五千石鑊炮百挺與カ三十騎ノ頭也